

10月号

第369号

# いっしん

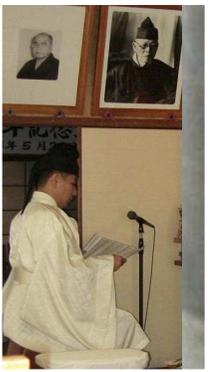
平成27年(2015年)

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市  
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 /FAX 020-4665-5653  
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会  
初代教会長  
安武松太郎師御教

日はひと日  
すさび来にける  
ひとごころ  
誰ぞか救はむ  
いまの世のさま

小倉教会 布教130年記念大祭 10月20日(火)  
甘木親教会 二代教会長 安武文雄大人 20年祭 12月23日(祝)



## 秋季霊祭

仕えられる

鹿児島島の野山に彼岸花が開いた、  
九月二十三日の秋分の日、加治木教会では秋季霊祭が仕えられました。

午前十時半より、教会長先生ご祭主のもと、ご神前で奏上祭が仕えられ、ご霊前に転座後は、加治木教会にご縁のある教徒から信徒のすべてのご霊神のみ名を読み上げられて、ご霊神様方にお礼申し、お慰め・お称え申し上げて、親神様のお恵みを受けられてひとときわ高い位のご霊神となられ、ご安心され家族親族を守り導く働きがでえられるようお願い申し上げます。

ご霊前では、祭詞奏上後、参拝者全員が順にご霊前に玉串を奉奠させていただきます。

ご祭典後、参拝者一同で茶話会の直会が開かれました。

加治木教会  
天地金乃神御大祭ご教話 平成二十七年  
五月三十一日

「ここまでのお礼」と  
「ここからの願い」

④ …… (1)~(6)

講師 大口教会長  
安武秀信 先生



三十一日の午前九時過ぎに診察を受けまして、退院することになりました。

そして、熊本から、十一時二十九分の「さくら」に乗って、すぐに御本部に向かいました。

退院するときに、刺激物などを取らないようにと、いろいろと注意を受けていますから、朝食が重湯でお腹が空

いていましたが、お昼のご飯はキヨスクで野菜やハムなどが入っていない消化の良いサンドイッチとお茶を買って「さくら」乗り込みました。お腹の空いているときですから、サンドイッチをペロッと食べてしまい、やがて博多に着きました。

私の横の指定席に、出張風のサラリーマンの方が乗ってきて、風ですが五百ミリリットルのビールをボンと置かれました。横目で見ておられます、ステーキ弁当でした。へうまそくだな〜〜と思います。

しかしこの人は、こういうビールが飲めるとか、ステーキ弁当が食べられるということをありがたいと思っているかな、私は手術をしたばかりでありますし教えを頂いていますから、食べられて飲めるということがなんとありがたいことかということがかかる、信心するということとはこういうことだな〜ということを改めて思わせられました。

そのとき思わせられたことが、入院中のことですが、三人と三人が対になって並んでおり、私は窓側だったので、一つおいた向こう側に入院され

てある男の方が、ナースコールを何度もされるのです。どうしてかということ、小用が出ないためです。

これは辛いですね、看護士さんのお世話にならないと排尿ができないわけです。

加治木教会の二階のトイレに「トイレの祈り」というのが貼ってあります「大小便のありますこと、ありがとうございます…」と、ほんとにそうなんです。

大小便ができるということが、ほんとにありがたいなと思わされます。

いよいよになると、甘木の初代の言葉のように、指一本自分で動かせないのです。それができるといのが、ほんとにありがたいのです。

そのように、入院してみますと「わが身がわが自由にならぬものぞ」というみ教えも「わが身は神徳の中に生かされてあり」というみ教えも、ほんとにそうだな〜と思いました。

白いご飯が頂ける、二十一万六千分かけて天地が調べてくださってある、そういうものを頂いて、この命が生かされているのであります。

「命の収支計算書」というものがあ

りまして、人生八十年生きたら、どれだけの物を頂いているかというのです。

八十才までに、お米は六トンだそうです。六千キロです。昔の一俵は六十キロでした。あの一俵で百俵です。今の一俵は三十キロですから、二百俵です。

それをご飯茶碗に直したら十一万杯、それを八十で割って、三百六十五で割ってみますと、一日の量が出ます。一日にだいたい三・七六杯、四杯弱、食べているのです。

それだけの物を毎日毎日頂くから生きられるのです。その外にも、小麦とか魚介類とか卵とかたくさんあるのです。

その中に、肉というのがありました。二・三トンでした。これは、鶏から、豚、牛、全部合わせてでしょうが、それを牛に直したら、六頭だそうですね。私はそろそろ六頭目くらいに入っています。八十才を越えた人は、七頭目に入っています。

それだけの物を頂いておるのです。みな天地のお育て下さった物です。

話しを戻します。金光に戻りまして、おかげさまで御用が普通どおりにできていきます。

そして、九月二十七日になりました。自分が入っておる宿舍の給湯器（瞬間湯沸かし器）が故障しました。戸外に取り付けてある物で、風呂から炊事まで全部まかなう給湯器です。

ガス屋さんに連絡して、すぐ来てもらったのですが「十九年前の商品ですから部品がもうありません。新しくしてください」ということでした。そのため、新しくしたのですが、考えさせられました。

九月二十七日は、私の誕生日なのです。機械が故障するのは、誕生日の前日も一週間前でもいいのですが、私の誕生日に故障したのです。

機械は、部品を持って来れば新しくできますが、人間の体は新しくできません。オギャーと生まれたときに頂いた部品を使っていく以外にないのです。

それならば、それを大切に使って、医学の力も頂きながら、なるべく長く使わせていただかねばならないということに改めて思わせられました。

さらに、私が手術をする前年平成二十四年の十二月十三日の明け方、夢を見ました。

夢の中で、大阪の地下街に入って行きましたところ、私を無頼漢が取り囲んだのです。ヤバイなと思って逃げようとしたのですが、すでに出口の所に仲間を手配して逃げられないようにしており、絶体絶命なのです。

そのとき、私が何をしたらかと言いますと、手を合わせて天地書附を「生神金光大神 天地金乃神 一心に願えおかげは和賀心にあり…金光様、金光様…」と唱えていますと、その無頼漢たちが蜘蛛の子を散らすように逃げて行くのです。そして目が覚めました。

そのとき思ったのが「これは何かあるんだろうな…」というのが、昭和四年の三月十八日に甘木初代ご夫妻が、大阪の阿倍野教会を訪ねられると言ったことがあります。

これは、伊藤コウ先生のご主人、徳次先生が亡くなって間もなくのことなのです。

徳次先生は甘木の初代のお弟子さんですから、徳次先生が亡くなって今から伊藤コウ先生が女の身で三十代

でありますから、大阪のご真ん中で御用なさって行かれるのに、心配も、祈りもあったのでしよう、阿倍野教会にご夫婦で行って、三日間逗留しておられます。

たぶんそのときに、甘木の初代がいろいろとお話し下さったのだと思いますが、徳次先生がなぜお道の教師になられたのかという話を後に、伊藤コウ先生が次のようにお話ししておられます。

《徳次先生のお兄さんが大病を助けていただかれたときに、夢を見られました。どんな夢かと申しますと、こん棒やドスやら手に手にいろいろな凶器を持った無頼漢に追いかけられ、お兄さんは逃げられるだけ逃げて最後に甘木の教会に逃げ込みました。そして、大きな御神殿の裏に逃げ込んで「先生助けて下さい」と言われました。間なしに後から追いかけてきました無頼漢が「今、荒木正五郎という男が逃げ込んだであろうが、その人間をここに突き出せ」というようなことでございます。大先生（安武松太郎先生のこと）が矢おもてに立たれまして「ただ今こちらに逃げ込んできた荒

木正五郎は、御本部の金光様のもとで修行すると言いつて出て行った、ここにはもはやおらん」と、こう仰ったそうであります。そうしますと「それでは仕方がない」と言いつて皆が凶器をぶらさげたまま引き揚げて行きました。そういうような恐ろしい夢を見させていただいて、さっそくそれを初代に御取次を頂かれた。》



徳次先生のお家は吉井という甘木から東の方に十六キロくらい離れたところの出身なのです。ですからたぶん、家族でお参りされたのだと思います。病気のおかげを頂けたことや夢のことをもって甘木教会にお参りされお取次ぎを頂かれたのですね、そのときに甘木の初代は、このように仰っております。

《その夢をよく考えるのです。無頼漢がいろいろの凶器を持って追いかけてきたというのは家のメグリ身の

メグリなのじゃ、貴方が御本部で修行させていただいて、人を助けるところの立派な人間にならせてもらえば、前々のメグリが取れるということのご神意じゃ、命を助けていただいたお礼に、お道の教師にならせてもらうように》

と仰られ、それで家族会議を開かれたわけです。

ところが、このお兄さんという方が学校嫌いで、朝お弁当を持って家を出るのですが山に行ったり川に行ったりして学校に行っていないために、字が読めなかったそうです。そのため、これで学院にやっても仕方がないというところで、勉強が好きであった弟の徳次さんに白羽の矢が立ったわけで、そのことをお取次頂かれたら「それでよろしい」ということで、徳次先生が十六才から甘木の教会に修行に上られ、八年間修行されて、伊藤コウ先生と結婚されて、阿倍野教会を設立されたのです。

この「メグリ」ということについてはですが、桂松平先生はこういふふうに教えてあります。

あるとき桂先生が四神様（二代金光

様)のところへお参りされて「金光様、世の中には紫檀・黒檀の箆箆をすえ緞子(とんす)の座布団に座りながら「紫檀・黒檀というのは上等な箆箆です。緞子とは絹の座布団というところです。」座りながら後ろから「呑みにしようとする海嘯(かいしゅう)」「津波のことです」「海嘯も知らぬ者がありますが」「すると四神様が「ハイもう駄目です」ということを仰せられたのです。」

とついでに「かといいますが、桂先生が霊地にお参りされたときに街を歩いておられるときに、突然ある家の前で四神様のお声で「その家に寄ってやれ」とお声がかかったので、桂先生は寄られたのです。しかし、桂先生は何のために寄ったのかわからないのです。」



それで桂先生は神様に「私は何のために寄ったのでしょうか」とお伺いされると神様は「徳切れた、徳をつけてやれ」ということで、そのご主人に「貴方は…だから、徳を積む信心をせねばならん、人助けをしなさい、教師になって人をたすけるのだ」ということを懇々と説得されるのです。

そのご主人も一時その気になられたのです。ところが一ヶ月ほどして桂先生が御霊地に参拝するとまだ腰が上がっていない、折悪しく、そのときに今のお金にすれば何億というお金の裁判が起きていたのです。

そのため「親類は止めるしこの裁判の決着がつくまで動けない」と。

桂先生が「親類の云うことなど聞いていた日にも、徳は積みませんぞ。云々」と言われるのですが「これが終わらんことには」と言っていて、とうとうスルスルとそのままで、そのときのことなのです、四神様が「もう駄目です」と仰ったのは、このご主人は、その一週間後に「くなくなつておられます。」

そういう阿倍野教会の初代が教師になられる時の甘木初代のメグリについての御理解のところが読んでお

りましたので、夢で無頼漢に取り囲まれたときに「…金光様」と唱えて無頼漢が逃げて行きへあー良かったと思つたのですが、眼が覚めて「これは何かあるな…」と思いました。

そうして、年が明けた四月の検査の検便で引っかかったのです。そして、七月にポリープ切除のおかけを頂いたわけです。

無頼漢の夢は、お知らせだったので「お前には大難が迫つておるぞ、シツカリ神様のおかけを頂けよ」ということであつたと思ひます。

そのように前年の十二月十三日の夢や、明けてポリープを切除して退院後の大口教会の月例祭での日めくりの「死せる身に 痛さかゆきは ながるべし 詫びかつらび ひとすじに折れ」という歌、そして金光で誕生日にカスの給湯器が故障するとか、いろいろなお気付けを頂いて、神様が「気付けよ、気付けよ」と仰つてあると改めてはつきりと思ひます。

(次言へついで)







# 雑感

教会長



日に新た 日に新たに

神幸に 生かされてこそ

今日の身もあれ

(安武松太郎師 御歌)

日々「ありがたいことだ」という心を新鮮なものに刷新しているだろうか。

どうせあれはあんなこと、これはこんなことだからと、あきらめ愈ってはいないだろうか。

不平不足な心に流され、当たり前となり、当然となり、いつしか感謝の心から遠ざかり、不平不足ばかりを思うようになってはいないか。

……○……○……○……

「信心はお礼が土台」「お礼を申していかねば…」と教えられるが、私

たちは、どこにお礼を申していけばよいのか…。

はつきりしているのだろうか？

天地に命を賜っていること、そうして毎日毎日衣食住万物を賜ってきたこと、はかり知ることのできないお恵みとお働きと深き愛情をもって恵まれていることを、知っていないから、知る努力、知る稽古を怠らないようにしたい。

自分で生きているのではない。

はかり知れない天地のお恵みの中に生かされていきているのだから、そのことを知り、わかり、神様とかよい合うようにならせていただくかねば。

……○……○……○……

御本部参拝は、年を取ってからするものではない。

暇になってするものではない。余裕ができてからするものでもない。

若いときから、真心を込めて「コソコソと、渾身の力をふり絞るような努力こそ、神様はお受け取り下さるのではないだろうか。」

# あしあと

加治木教会行事記録

9月

1 (火) ●報徳月例祭 10時半

5 (土) 56 (日)

甘木親教会信徒研修の集い

9 (水) 斎掃御用 10時

10 (木) ●生神光 月例祭 10時半

17 (木) 小倉教会TSC (教会長)

18 (金) 甘木親教会社年部御用 (教会長)

21 (祝) 斎掃御用 10時

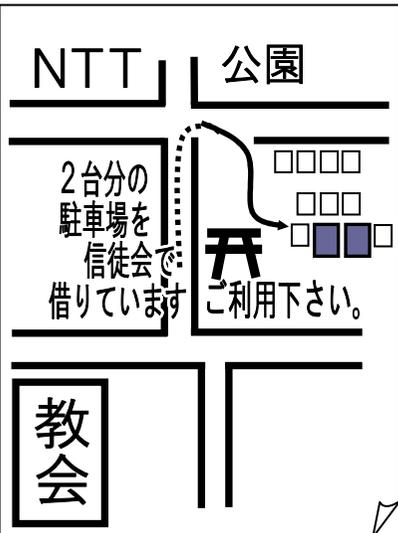
22 (休) ●月例祭・共励会 13時半

23 (祝) ●秋季霊祭 10時半

26 (土) 527 (日)

青年ふれあいフォーラム (農教区 協賛)

30 (水) 斎掃御用 10時



十月三日(土)～四日(日)

加治木教会出発六時五十分

御本部生神金光大神御大祭 参拝

大型貸切バスにて参拝の予定、大口教会乗り込み、旅費約一万八千円(宿泊費込み)

十月二十日(火) 六時 出発

小倉教会

布教百三十年記念大祭 参拝

十二月三日(木)・四日(金)

甘木親教会

生神金光大神御大祭 奉仕

十二月六日(日) 午前十一時

加治木教会

前日御用奉仕

生神金光大神御大祭 奉仕

※「祭典後、講師の先生により」ご教話。

御大祭・記念祭・式年祭

〔10月〕

11(日)川内教会65年記念大祭 11時

20(日)小倉教会130年記念大祭 11時

25(日)人吉教会御大祭 11時

宮崎北教会御大祭 (教会長 教話御用)

教会行事

10月

1(木) ●報徳月例祭 10時半

3(土) 矢野サダ子大刀自立日御祈念 10時

御本部 天地金乃神 御大祭参拝

4(日) 御本部 天地金乃神 御大祭参拝

9(金) 斎掃御用 10時

10(土) ●生神金光 大神様 月例祭 10時半

11(日) 川内教会65年記念祭 11時

13(水) バンド練習 19時半

青年会 20時半

20(火) 小倉教会130年記念祭 参拝

21(水) 斎掃御用 10時

22(木) ●月例祭・共励会 13時半

24(土) 御用奉仕

25(日) 人吉教会御大祭 (教会長 教話御用)

宮崎北教会御大祭 10時

十一月二十四日～十一月三十日 御大祭前 信行期間

ご祈念・研修 午前五時～二十分・午前十時  
ご祈念のみ 午後四時・午後九時

「信行取り組み表」

に取り組ませていただきますように。

11月

1(土) 月例祭・御用奉仕 10時半

3(祝) 甘木親教会参拝 感話御用 (教会長)

9(月) 斎掃御用 10時

10(火) ●生神金光 大神様 月例祭 10時半

併せて 立教記念祭・新穀感謝祭

11(水) バンド練習 19時半

青年会 20時半

14(土) 多良木教会御大祭 11時

15(日) 鹿児島教会御大祭 11時

19(木) 連合会執行部会 10時半

20(金) 斎掃御用 10時

21(土) 大口教会御大祭 12時

22(日) ●月例祭・共励会 13時半

23(祝) 西鹿児島教会御大祭 11時

30(日) 斎掃御用 10時

加治木教会 バンド練習会 練習日 随時連絡します。

これから練習会に参加して  
みなさんでお役に立たせて  
いただきますように。